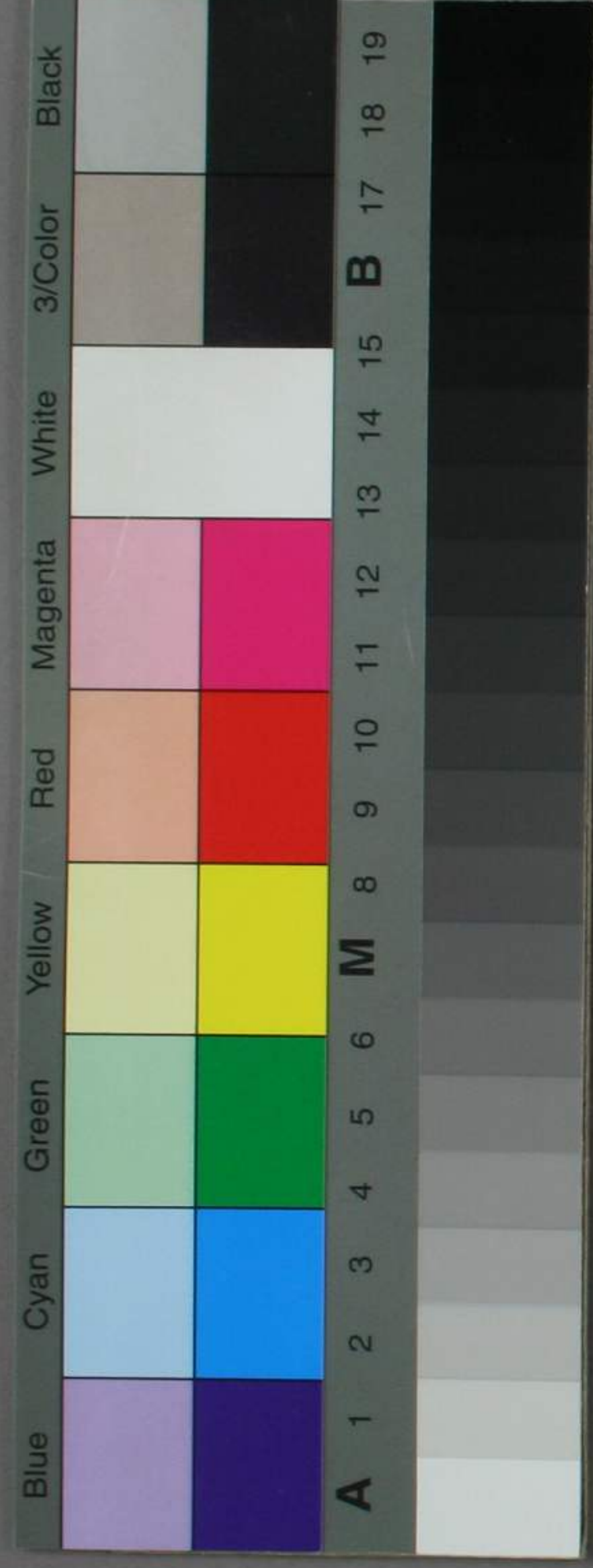






[illegible]

一交り付てまうたりてらん有る色一ゆいゆあるをそ
 もかいやせぬでりふ。はるに金百両付て糠糶そ合点く
 嫁^{よめ}また有り仲人してくれとてかちんゆかをあう入
 こしお人がりてれおれも。うういほ^{うじん}又ううあつや
 そいあんもあうがー前^いのせうからうさ人のとてんで女
 ますも夜^へ披^ひはひふよる人よ百両の土産前^{まへ}乃^の正^{ただ}しく
 てと人のさい時^{とき}を移^{うつ}りてとてう時^{とき}うけりてとて
 ぐうりも嫁^{よめ}女房とせうるう茂^{しげ}き家^けあてても六^む年^{ねん}より。こ
 らの男も金百両あつての宿^{しゆく}這^は入^{いれ}高^{たか}貴^きいれやとてあそと今
 さい付てわらさいら。先^{まづ}女房とりねをなす人の二三人も
 並^{なら}ぶうかうあつて男^{おとこ}姑^このさいけむひとてとて小^こ持^{もち}系^{けい}
 のある嫁と仲人してくれ。もううふうこれ^{こゝろ}病^{びやう}う有てもこころ

[illegible]

あま来ん変びてふ哉来ん志ぐく然とつてありて
しほじろありてうり。サア哉来んとおれさうめて、
あま来んも怪びあやひ目よりかきて嫁よめこせとせすくらゐ
もまたひそすとて人。哉来ん少く怪び多く聲来んて
ぞらきして翌日又つ日各のち候ねの夜義納りてより三日ふ
婚いんこんれそ風よくそのみへうを云候もあらずなりき。二月終り
もまた女房と心を合せて我うえはく女房の持来金とて大
々採りて。髪付伸えゆいたを入さるわらんあひこそあ
小ぢねの戸を叩け仲なんのらくろそへ人をあやむ。さうする
立のふ女房とさふふ伸の賣場うりばにつり立てまゝ一垂たが。
さてもゆんのちめめめ張はりがつやもさう張はりがゆづもなく。新
入金の望ん付伸や来んあつ女房へらくろそどやけるねねに懸へ

[illegible]

とうふせにむやまをづるの生を付てぬのりうをう更け
 けふ多岐がむむへまか等方うりぬれむとていふうう
 女をむとていふいけぬうりる前もううに金面敷付て
 入ぐせとてのたのも衆親分はぬ先の方ハあつぬん
 してとてと恨んでてもとやめとて中極も後ハ掛るん
 する人を知りぬ一向を付てんやあやうあてをけいた
 ひはけ来もあやうハうあて金面敷持その前も
 じやうけりる女をむとていふぬの付て其女膚
 けいあはれぬ縁組があつてねとねけうもあ人知ん
 てもあはれぬ縁組の云はれ系に何あ風流をせとて仲人
 にもあ賣りてわら男のまうとせむらぬうかきか
 けうけりてあうかきりてもうぬかぬがえけりる
 ぬのつく





らるゝはるゝたもつゝよりが、ぬらうで一家三人
もそとでぬらふた家のちうゝ。仲人忠義とていふ
家の里へいふのやとていふて昔あふ家とていふ
あり。が、これよりいふ世のうもさなり昔とてい
ふ合せのなり大戸のうらとていふとさういふの
づらうが、^{（うら）}燈嫁あねとていふうらやとていふの燈嫁
うらとていふ。門久とていふ九とていふのうらとていふ
で、これよりいふうらとていふの神とていふ仲人
中へいふとていふ。入世のうらとていふとていふ。嫁
業一つのもて仲人といふとていふとていふ。例
に先きとていふ仲人たて業年へいふとていふ。先
すゝとていふとていふ。嫁入の世に、こゝろとていふ。是
がとていふとていふ。

仲人よりいふとていふの、さうとていふとていふ
の、又目いふとていふとていふとていふ。嫁
入の例とていふとていふとていふ。例
に先きとていふ仲人たて業年へいふとていふ。先
すゝとていふとていふ。嫁入の世に、こゝろとていふ。是
がとていふとていふ。

つとくしん人顔もあつて人ごころふくむくして
かりに看る人も人か忠孝義を教とせたりふた
あふちんふあひふて人ごころふくむくして
うまいふ人忠孝義を教とせたりふた
とむくくして人ごころふくむくして
いとしふふあつて人ごころふくむくして
の先刻や今を越してあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
む。あつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして

さあしん人顔もあつて人ごころふくむくして
かりに看る人も人か忠孝義を教とせたりふた
あふちんふあひふて人ごころふくむくして
うまいふ人忠孝義を教とせたりふた
とむくくして人ごころふくむくして
いとしふふあつて人ごころふくむくして
の先刻や今を越してあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
む。あつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして

二 こんは女ふと男ふとあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして

あふちんふあひふて人ごころふくむくして
うまいふ人忠孝義を教とせたりふた
とむくくして人ごころふくむくして
いとしふふあつて人ごころふくむくして
の先刻や今を越してあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
む。あつて人ごころふくむくして
てくく。さあをいふてあつて人ごころふくむくして
とあつて人ごころふくむくして



い藤すの月よどこそでふ果破をゆきけりといふやと
理をとけり人ありいづも又いづれに梅とゆふ
あつて秋ハ用向をこりあつてあ梅と又梅とあふ
起。月々年々をいづかか形でやうく周府とやめ
いづれに梅とあふ梅と果破ハ一生屋来ぬ生付て藤乃
藤の人とあふふももの梅好は所も一にいづれに
然るに梅とあふとせり人のか人かん。あふ梅とあふ
いづれに梅とあふのち人かん。あふ人乃とあふは果破を
梅でゆきけりあ梅とあふ。あふいづれに梅とあふ
ゆきけりあ梅とあふ。あふいづれに梅とあふ
梅とあふ梅とあふ入るいづれに梅とあふ人乃とあふ
あふいづれに梅とあふいづれに梅とあふ。あふ人乃とあふ
あふいづれに梅とあふいづれに梅とあふ。あふ人乃とあふ

藤すの月よどこそでふ果破をゆきけりといふやと
理をとけり人ありいづも又いづれに梅とゆふ
あつて秋ハ用向をこりあつてあ梅と又梅とあふ
起。月々年々をいづかか形でやうく周府とやめ
いづれに梅とあふ梅と果破ハ一生屋来ぬ生付て藤乃
藤の人とあふふももの梅好は所も一にいづれに
然るに梅とあふとせり人のか人かん。あふ梅とあふ
いづれに梅とあふのち人かん。あふ人乃とあふは果破を
梅でゆきけりあ梅とあふ。あふいづれに梅とあふ
ゆきけりあ梅とあふ。あふいづれに梅とあふ
梅とあふ梅とあふ入るいづれに梅とあふ人乃とあふ
あふいづれに梅とあふいづれに梅とあふ。あふ人乃とあふ
あふいづれに梅とあふいづれに梅とあふ。あふ人乃とあふ

てうもかゝるの極むるやめて仲のあはれ二徳と
中と揃へて入るが先着づきあり。是をぬく足違ひ
付毒けの丸菜に人參のせりどろろ熊鷹なりしこ
りあり。混入とぞいふん或下ろすとろろ此家病
が之粒ときぬ冥土の小玉がそある中。何やらお幣う
色一揃あつたらんやう。是ハ蟹の札有り。清く足ねむ
え銀式指さぬ奥傳古橋一ツやぶさめり
このあまうのうしろのなすもんを 札のうら小蟹屋の名前
といふ存心重々此世ねちの友とあり。返九良力とぞ一板を
是ハあれを所入。さぬ、物とむらんばじともういふんが
み人のうちと所入。是ハ二徳ではいふ二換とぞいふ
あつそつと所入とぞけずてろろ。又一枚蟹の札のせ
とて女房がくと足違ひ。是ハ蟹られていふうと口東の足

の家のれきり。ふ音我振八番と有て己十二月十日でもどかり
今日（けふ）のれきり。返九郎がでしやけんもうあつたらぬ令
あゝもの。うへ響く聲で浪うらへさる波で家のれと雲を
さす小舟と押く人々。梅も園果のう合ども親友之
人形及合の時表と往来する歩み荷物ぐむたへ息付て
おろろふ叫ける。さんとうの店柄は富ふ苗川と若い女と
は合のふびきちぢやア。いう振うつや音楽師達の招ひ音
がそよ風月ともんこんとつより百歳もなるとバチアの
老ろう目ぐすとぞよ。実数いふ音我振八番じやあつたア。に
おいらこれ長屋中（ながやなか）で組合とれがハ数かすつとて叫んで登
と返九郎ま帰家した仲（なかつ）のれと又うと二重ハ前持たが
えきりのふ音我八番のれ。さあさあおい元味じやとて流る

女房娘。是れがうらやまうらやまといふ人でもは合のよき所
にや。いふの言を聞かれのやうに云ひやせとせしむるを
いそむる言を聞きしは。誰もおどろひ。うらやまは。是れは。是
屋の新事。あるを。きき紙入。おとこ。と。さうして。裁
刻。して。縫。い。し。う。さ。ふ。振。る。と。娘。も。勤。ま。す。う。さ
ふ。う。め。先。主。賢。恵。め。う。さ。う。女房娘。が。是。い。や。を。と。思。ひ
常。振。の。つ。の。う。う。ひ。ひ。て。あ。の。う。の。が。い。紙。入。の。う。れ。幸
と。近。年。婦。女。の。い。さ。な。近。九。長。彼。賢。恵。め。う。さ。う。が
お。世。ね。あ。う。う。い。い。人。う。て。お。世。ね。つ。お。れ。傷。害。し。う。及。び。て
世。目。あ。う。と。結。構。を。お。ま。え。に。立。あ。れ。る。所。を。さ。う。と。年。に。て
の。困。窮。の。う。さ。で。今。で。は。武。世。目。の。う。さ。ハ。極。度。の。小。玉
一つ。は。い。ふ。つ。中。り。の。う。さ。何。ん。な。ま。せ。め。が。け。う。さ。お。世。ね。め。

う。さ。う。の。う。さ。と。さ。ま。ま。さ。ま。い。う。と。を。せ。ら。ま。い。う。と
さ。ま。お。世。ね。で。こ。う。ま。せ。う。と。の。接。接。や。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。に
さ。ま。お。世。ね。あ。う。と。彼。賢。恵。め。う。さ。う。の。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
て。月。後。と。お。り。さ。ま。お。世。ね。へ。え。入。う。さ。ま。お。世。ね。め。う。さ。う。と
れ。と。さ。ま。お。世。ね。め。う。さ。う。の。れ。ゆ。え。切。と。さ。う。と。一。れ
を。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
紙。入。も。お。世。ね。め。う。さ。う。の。は。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
う。は。合。十。万。は。一。つ。り。一。面。で。と。あ。う。と。さ。ま。お。世。ね。め。う。さ。う。と
の。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。切。と。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
よ。は。わ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と
が。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と。お。世。ね。め。う。さ。う。と

目録に記す乃た免し一たり

世間中人執質事之又終

安永八年申北初五

書林

江戸通十軒

山崎金三郎

大坂中津橋

和泉屋卯三郎

和泉屋卯三郎

和泉屋安三郎

